

講義名	観光事業論		
科目区分	学部フリーゾーン		
担当教員	柏木 千春		
開講期・曜日・時限	前期 月曜日 3時限	授業形態	
履修開始年次	1年生	単位数	2
		備考	

主題と概要			
講義形式：【同時双方向型】と【課題学修型】の混合で行います。各回Ryuka Portalの講義連絡を確認してください。			
<p>概要：</p> <p>日本では、観光事業を地方創生の重要な柱として位置づけ、各府県並びに地方自治体と連携しながら、積極的に取り組んでいる。観光事業を通じた地域の活性化を図るためには、地域の観光資源を磨き、発見・創造して適切に情報発信するとともに、旅行者ニーズの動向を踏まえ、旅行者の一連の行動（タビマエ、タビナカ、タビアト）や現地での経験における多様な関係者が見せ方や楽しませ方を工夫・改善していく必要がある。また、そのためには人材の育成のあり方や、旅行に行きやすい環境づくりなども議論しなければならない。加えて、インバウンド事業の振興を図り、国際競争力の高い地域を形成することも求められている。</p> <p>この講義では、地域における観光事業の意義、観光バリューチェーンの構築、民間事業者・住民・行政と共に行う政策と実行など、事例を通じながら観光事業を支える理論や思想を学ぶ。</p>			

到達目標			
<ol style="list-style-type: none"> 観光事業にかかわる理論を身につける。 観光サービスの諸特性を理解する。 地域コミュニティ、観光関連事業者、観光客、地域資源との深いかかわりを理解する。 普段から、観光地域づくりに関心を持ち、積極的に参画したいと思える。 自分の問題として考えるようになる。 			

提出課題			
各回の授業内容に関連する課題をだします。			

課題（レポートや小テスト等）に対するフィードバック			
講義の始まりに、前回のレポート課題に関するフィードバックを行います。			

評価の基準			
各回の課題の提出状況及び回答内容で判断します。			

履修にあたっての注意・助言他			
<ul style="list-style-type: none"> 熱心な受講、小レポート作成をきっかけに毎回のテーマについて積極的に自ら考えることを期待する。 将来観光関連業界を志望する学生を歓迎する。 各回で出される課題が未提出の場合、欠席とみなされる。各回の課題提出を10回以上していないと単位認定できない。 			

教科書				
『1からの観光事業』	高橋一夫ほか編著	碩学舎	2592	978-4-502-17281-6

プリント資料及び参考文献				
『観光まちづくりの力学』安村克己著、学文社				
『観光ビジネス論』谷口知司、ミネルヴァ書房				
『観光の地域ブランディング』敷田麻美、学芸出版社				

授業計画				
<ol style="list-style-type: none"> オリエンテーション 観光事業とは 観光事業のマネジメント（1章） 観光のマーケティング・マネジメント（4章） 観光地におけるDMO 地域のまちづくり 地域のまちづくり（13章） 地域のイベント事業 地域活性化策としてのIR（12章） 空港と地域（11章） 地域ブランドとは 観光地としての地域ブランド（14章） インバウンドツーリズム インバウンドツーリズム(15章) スポーツツーリズム まとめ 				

授業形態（アクティブ・ラーニング）				
ア	PBL（課題解決型学習）			
イ	反転授業（知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態）			
ウ	ディスカッション、ディベート			
エ	グループワーク			
オ	プレゼンテーション			
カ	実習、フィールドワーク			

準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間				
以下の事前・事後の課題には、自己学習時間4時間程度必要となる。				
<ol style="list-style-type: none"> 予習:観光活動とはどのような活動なのか?例を挙げて説明してみよう 復習:国や地域によって観光活動の違いが出ると思うか、理由も含めて意見を述べよう 予習:教科書1章を読んでおこう 復習:教科書1章「考えてみよう」に答えよう 予習:教科書4章を読んでおこう 復習:教科書4章「考えてみよう」に答えよう 予習:事前配布資料を読んでおこう 復習:授業で感じたことをまとめよう 				

双方向授業の実施及びICTの活用に関する記述				

実務経験の有無及び活用				
実務経験あり(旅行会社では、団体旅行の営業・旅行企画・添乗業務と地域観光マーケティングコンサルタント業務を担当していた。現在もなお、観光地域づくりの支援を全国で行っている)事例を使った学習では、いまどこでどのような課題に直面しているのか実践事例を使って討議するのに役立つ。				

備考				
授業の進捗により、内容を変更することがある。				